11月園だより

めいろうこどもえん

２０１５年度　年主題〈『平和』をつくる〉

0･1･2歳児11月主題　「ありがとう」

月のねがい

◎秋の実りに感謝し、あじわう
◎友だちや保育者と食を共にする喜びを感じる
◎季節の変化の中で元気に過ごす

3･4･5歳児11月主題　「ありがとう」

月のねがい

◎自分の気持ちや考えを出し合いながら友だちと過ごす
◎いろいろな人の働きを心にとめる
◎秋の実りやたくさんの恵みを喜び感謝する

今月の聖句　「主よ。わたしのたましいは、あなたをあおいでいます。」

詩編２５:1

「神　初めに　天地を創り給へり」。聖書創世記の冒頭のことばです。天体･地球･海･山･川･諸植物･諸動物･人間の創造が記されています。人間には肉体と同時に魂が与えられ、肉体は生命を支え、魂は神のことを思い、天地の神秘を探求するように期待されています。人類の発展は探求によってあらゆる文明の利器を創り出してきました。天体の星を見るたびに、多様の恵みを知るたびに、月の語りかけを聞くたびに、人間は科学者･哲学者･芸術家に身を投じて、互いの豊かさを積み上げてきました。しかし、単に人間のエゴのためにのみ自然や環境が利用されるだけでは、やがて人類滅亡に通じます。バランスよく利用されてはじめて永続することができます。人間の欲望追及の暴走をとめ、謙遜になるために神の忠告が必要です。「神を仰ぐ」とは神のことばに耳を傾け、宇宙万物が相互に助け合い、分かち合うことができたとき、私も幸福になり、あなたも幸福になります。

前理事長　池田公榮

１１月の行事予定

８日（日）	黒潮文化交流の祭典(年長児)
１４日（土）	入園説明会（11:00 ～）
１８日（水）	牛見学
２５日（水）	クリスマス会予行練習

１２月の行事予定

５日（土）	クリスマス会(17:00~)
１０日（木）	もちつき大会
１５日（火）	12･1月誕生会
２１日（月）	終園式(1号:午前保育)

2016年度入園説明会
１１月１４日（土）１１時より
入園願書受付開始
１２月１日（火）
ご紹介を何卒宜しく
お願いします！

側に友のあること

島の所々で見かける芙蓉の花。朝開花したときには白い花弁が、夕方になるにつれてピンク色に染まっていく酔芙蓉がとてもきれいです。秋も深まり、時折冬の訪れを感じさせる風が触れていく季節になりました。大きな行事を終えホッと一息。季節の移ろいを五感で感じながら、ゆったりとした時間を楽しんでいます。一つ一つの行事が終わるたびに、私たちにも達成感や安堵感はもちろんありますが、同時に淋しさも感じるものです。多くのシーンで支援が必要だった子どもたちが、それぞれの時を得て育っていきます。様々な経験の後、自立を感じさせる行動や言葉の表れが嬉しくもあり、少しずつ手から離れていく淋しさもあります。

先日、年長児と一緒に交通安全指導を兼ねて榕城小学校へ行ってきました。一年から六年の全クラスを回り、懐かしい卒園生の姿を見ることができて、とても嬉しかったです。すっかり成長した身体と言葉遣いに驚きつつ、友だちとの関係性や社会性の育ちを垣間見ることができ感謝でした。

幼児期の社会性を考えることは、まず友だちとの関わりを考えることです。しかし、見知った相手ならまだしも、知らない相手がたくさんいる環境の中に置いて、「なかよく遊んでね」「上手に遊ぶんだよ」というのは、大人が考えるほど簡単なことではありませんね。まだ集団に属さないひとり遊びの時期。自分が遊びにのめり込むことで精一杯の時を、十分に遊び込んで満足することが大切です。満足いくほどに遊び込んだ経験が、友だちと遊ぶことへの楽しさへと繋がっていきます。その中で、相手の気持ちや良さに気づく感性をゆっくりと育てたいものです。乳児期の依存体験でいっぱい自分の欲求をかなえられた子どもは信頼感が高まり、他者との関係性へ繋がっていきます。そうして、友だちとの交わりの中で競争意識を感じ、協調や共感とのバランスも見えてきます。運動会やおすもう大会で得た忍耐や自信が、今後の行事や活動の中で、自主性や創造性として現れてくるのを期待していきましょう。

集団生活で与えられる大きな賜物。それは友だちです。保育者との信頼関係や直接的な体験と共に、喜怒哀楽を共有し、競い合い、衝突し、分かち合える関係を持つことこそ幼児期にふさわしい生活ではないでしょうか。相互に刺激し合い、興味関心の高められる日々になりますように祈ります。流行性の疾患が蔓延し始める時期、手洗い･うがいに十分な睡眠と食事に心がけて参りましょう。

園　長

ゆっくりね、できることが増えてうれしいね！

秋風が気持ちいい毎日、園庭では子どもたちが元気に遊んでいます。

3歳児さんはネットクライミングにチャレンジ！先生と一緒にネットを上って、降りて…上手に手足を使ってできた！と、とても嬉しそうです。怖くて前に進めなくなってしまうお友だちがいると、「こうやってしたらいいよ！」とやって見せてくれたり、「大丈夫だよ！」と励ましてくれたりします。怖がっていたお友だちも最後まで自分で渡りきりました。自分のことでいっぱいいっぱいだった4月の頃を思うと、半年で体も心も大きくなっているなぁと感じることでした。

1歳児さんは、只今イヤイヤ期に突入!?「これは着たくない！」「トイレに行きたくない！」「食べたくない！」と片言や身振り手振りでアピールしています。

先日、研修会でイヤイヤ期は自分で自分のことをしたい、大きくなりたいという気持ちが育つ大切な時期であり、子どもの気持ちに共感したり、選択できるように声かけしたりすることが大切であると学びました。ゆっくりでいいよ…と心に余裕を持って子どもたちに関わりたいと、改めて感じました。

今年度も半分を過ぎました。園生活やお友だちとの関わりを通して、体も心ももっともっと大きくなるよう祈っています。

大河

親も自分にマッサージしましょう！

山口　創　著

子育てや家事、仕事などでストレスがたまっているようなときは、親も自分へ腕や顔へのセルフマッサージで自分自身をケアしてください。セルフマッサージは、やりたいときに自分一人ですぐにできるのがメリットです。

セルフマッサージを行う際のポイントは、クリームやオイルをつけて、ゆっくりとしたスピードで自分の体をなでさすることです。すると副交感神経が優位になって、心がやすらぎ、ストレスが減ります。イライラして怒りっぽくなっているようなときにも有効です。心が落ち着いて、気持ちがしずまります。

その反対にクリームやオイルをつけないで速いスピードでマッサージをすると、交感神経が優位になり、体は覚醒し、頭もさえてしまいます。疲れているけれどもっとがんばらなければいけないといったときは、この方法がよいかもしれません。また、不安を感じているようなときは、自分で自分をギュッと抱きしめるだけでも心が落ち着いてきます。

ＰＴＳＤ（心的外傷後ストレス障害）の子どもたちのケアで用いられる「バタフライハグ」という方法もあります。手のひらを自分の側に向け、両手を胸で交差させて肩を抱き、片方ずつトントンとやさしくたたくことで、安心感が増して不安がやわらぎます。

ストレスがあると子どもとの触れあいも楽しめませんし、せっかくのスキンシップ効果も薄れてしまいます。心も体も疲れていると感じたら、ぜひご自分もケアしてほしいと思います。そもそも、ベビーマッサージでは、赤ちゃんへのマッサージの前にまずは疲れているお母さん自身をいやしてあげることが大切です。多くのお母さんは日ごろ、子どもと関わっている重荷を労ってくれる人がなかなかいないため、一人でそれを背負い込んでいます。だからこそ、ベビーマッサージ教室などに行ったときは、母親もお互いにハンドマッサージをしたり、肩をもんだりしてストレスを軽くしましょう。そのようにすると、涙を浮かべたり、ため込んでいた苦労を話しだすお母さんもたくさんいます。

こうしてお母さんを外出させて、同じ苦労をしているお母さん同士をつなげたり、お母さんを労ってあげることが、ベビーマッサージ教室の大切な目的のひとつだと思っています。

まずは、お母さんがそのようにして自分のストレスを解消してから、ベビーマッサージをはじめるとよいでしょう。

※「脳はだっこで育つ」　より抜粋

めいろうこどもえん めいろうこどもえん めいろうこどもえん めいろうこどもえん めいろうこどもえん めいろうこどもえん めいろうこどもえん めいろうこどもえん めいろうこどもえん めいろうこどもえん

九月園だより

めいろうこどもえん めいろうこどもえん めいろうこどもえん めいろうこどもえん めいろうこどもえん めいろうこどもえん めいろうこどもえん めいろうこどもえん めいろうこどもえん めいろうこどもえん

めいろうこどもえん めいろうこどもえん めいろうこどもえん めいろうこどもえん めいろうこどもえん めいろうこどもえん めいろうこどもえん めいろうこどもえん めいろうこどもえん めいろうこどもえん

めいろうこどもえん めいろうこどもえん めいろうこどもえん めいろうこどもえん めいろうこどもえん めいろうこどもえん めいろうこどもえん めいろうこどもえん めいろうこどもえん めいろうこどもえん

めいろうこどもえん めいろうこどもえん めいろうこどもえん めいろうこどもえん めいろうこどもえん めいろうこどもえん めいろうこどもえん めいろうこどもえん めいろうこどもえん めいろうこどもえん

九月園だより

めいろうこどもえん めいろうこどもえん めいろうこどもえん めいろうこどもえん めいろうこどもえん めいろうこどもえん めいろうこどもえん めいろうこどもえん めいろうこどもえん めいろうこどもえん

めいろうこどもえん めいろうこどもえん めいろうこどもえん めいろうこどもえん めいろうこどもえん めいろうこどもえん めいろうこどもえん めいろうこどもえん めいろうこどもえん めいろうこどもえん

めいろうこどもえん めいろうこどもえん めいろうこどもえん めいろうこどもえん めいろうこどもえん めいろうこどもえん めいろうこどもえん めいろうこどもえん めいろうこどもえん めいろうこどもえん